



平成22年度（平成21年度対象）
羅白町教育行政の点検・評価報告書

羅白町教育委員会

目 次

第 章	はじめに	2
1	目 的	
2	点検評価の概要	
3	学識経験者の知見の活用について	
4	教育行政評価委員名及び委員の任期について	
第 章	羅臼町教育委員会の活動状況	3
1	教育委員の任期	
2	教育委員会の会議	
3	教育委員の活動状況	
4	教育委員会議の内容	
5	条例・規則等の制定、計画等の策定状況	
6	学校への指導・助言・援助の状況等	
7	外部評価委員会の開催	
第 章	教育行政の内部評価	7
1	重点施策の評価	
	(1) 学校教育	
	(2) 社会教育	
第 章	外部評価委員会の意見要約	1 5
1	教育委員会の活動状況について	
2	幼 稚 園 教 育	
3	学 校 教 育	
	(1) 信頼に応え魅力ある学校づくり	
	(2) 確かな学力を育む学習指導について	
	(3) 豊かな心や健やかな体を育む教育	
	(4) 連携型中高一貫教育の推進について	
4	社 会 教 育	
	(1) 社会教育計画・条件整備	
	(2) 指導者養成・研修	
	(3) 青少年教育	
	(4) 芸術文化	
	(5) 団体・サークルの育成・支援	
	(6) 公民館	
	(7) 社会体育	
第 章	まとめ	1 8

第 章 はじめに

1 目的

この点検評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正によって制度化され(平成20年4月1日施行)毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の事務の管理執行状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りながら点検評価を行ない、その結果に関する報告書を作成して、議会に提出するとともに公表し、町民への説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進することを目的としています。

2 点検評価の概要

点検評価の実施にあたっては、羅臼町教育委員会が行った点検及び評価の結果をまとめたものです。

評価の基準として、達成状況の十分なもの(効果が現れているもの)をA・ほぼ達成しているもの(一部効果が現れているもの)をB・進行中(進行はしているが効果がみられない)をC・計画はしたが未着手のものをDとしました。

3 学識経験者の知見の活用について

点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験者の知見を活用する事が法で定められております。このことから教育委員会では、5名の羅臼町教育行政点検評価に係る委員を委嘱し、会議を通じて各事業の点検評価内容の説明を行うとともに、各委員から具体的な意見などをいただきました。

教育委員会では、この結果を踏まえながら教育行政の充実した推進を図ってまいりたいと考えています。

4 教育行政評価委員名及び委員の任期について

任期：平成22年4月1日から平成24年3月31日

氏名	住所	職業	備考
二宮 信一	釧路市城山1-15-55	釧路教育大学准教授	教育学・特別支援教育
境 智洋	釧路市城山1-15-55	釧路教育大学准教授	地域学校教育
芦崎 輝雄	羅臼町八木浜町24	会社役員	元羅臼町教育委員長
関 勝則	羅臼町麻布町50	会社役員	道社会教育アドバイザー
佐々木 泰幹	羅臼町幌萌町623-42	知床山岳ガイド	知床山海塾塾長

第 章 羅臼町教育委員会の活動状況

1 教育委員の任期

職 名	氏 名	就 任 日	任 期 満 了 日
委 員 長	石 川 勝	昭和58年 6月 1日	平成24年 9月30日
委員(委員長職務代理者)	萬 屋 志都子	平成18年 1月 1日	平成23年 9月30日
委 員	田 中 紅美子	平成21年 6月 1日	平成26年 1月24日
委 員	川 越 優英知	平成18年10月 1日	平成26年 9月30日
委員(教育長)	池 田 栄 寿	平成19年 1月10日	平成24年 9月30日

2 教育委員会の会議

開催回数	・ 定例会	12回
	・ 臨時会	1回
議決事項	・ 議決案件	9件
	・ 報告案件	15件
	・ 協議案件	28件
	・ その他	5件

3 教育委員の活動状況

(1) 研修会に関する事項

根室管内教育委員会連合会定期総会・研修会(羅臼町)

北海道教育委員会連合会研修会(札幌市)

教育委員研修会「羅臼町の特別支援教育の取組みと課題」

教育委員研修会「羅臼町の学校給食の現状について」

教育委員研修会「生きる力を育む創意と調和のある教育課程の編成・実施」について

(2) 学校行事に関する事項

羅臼幼稚園、春松幼稚園の卒園式・入園式・運動会・発表会

羅臼小学校、春松小学校卒業式・入学式・運動会・学芸会

羅臼中学校、春松中学校卒業式・入学式・体育大会・文化祭

羅臼高等学校卒業式・入学式・学校祭

植別小中学校閉校式 飛仁帯小学校閉校式

(3) 社会教育に関する事項

羅臼町成人式 羅臼町文化祭 文化協会総会

(4) 体育行事に関する事項

国後眺望駅伝大会 総合型スポーツクラブ「らいず」

(5) その他

羅臼町校長会との教育懇談会 教育委員の幼稚園・学校訪問

高校生の水産教室 羅臼町敬老会

4 教育委員会議の内容

開 催 日	付 議 案 件
平成21年 4月27日	【報告事項】 第6号 諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案 第10号 平成21年度 教育予算の補正について
平成21年 5月26日	【報告事項】 第7号 諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案 第11号 平成21年度 教育予算の補正について 議案 第12号 平成21年度 準要保護児童・生徒の認定について 議案 第13号 教育委員会委員の辞職について
平成21年 6月24日	【報告事項】 第8号 諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案 第14号 平成21年度 準要保護児童・生徒の認定について
平成21年 7月27日	【報告事項】 第9号 諸会議・諸事業について 第10号 外国語指導助手の交代について 【協議事項】 議案 第15号 平成21年度 準要保護児童・生徒の認定について
平成21年 8月 4日	【報告事項】 第11号 平成22年度から使用する中学校教科用図書の選定について
平成21年 8月26日	【報告事項】 第12号 諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案 協議 第1号 平成21年度 教育費補正について
平成21年 9月28日	【報告事項】 第13号 諸会議・諸事業について 第14号 平成21年度 教育費予算補正結果について 【協議事項】 議案第16号 羅臼町就学指導委員会規則の一部改正について 選挙第1号 羅臼町教育委員会 委員長の選挙について 議案第17号 羅臼町教育委員会 委員長職務代理者の指定について
平成21年10月26日	【報告事項】 第15号 諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案 協議第3号 羅臼町校長会への諮問・答申について
平成21年11月18日	【報告事項】 第16号 諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案第18号 平成21年度 羅臼町中高一貫教育知床学士認定試験の実施について 議案第19号 平成22年度全国学力学習状況調査の実施について

開 催 日	付 議 案 件
平成 2 1 年 1 2 月 1 1 日	<p>【報告事項】 第 1 7 号 諸会議・諸事業について</p> <p>【協議事項】 議案第 2 0 号 「羅臼町確かな学び推進プラン」策定について</p>
平成 2 2 年 1 月 2 6 日	<p>【報告事項】 第 1 号 諸会議・諸事業について</p> <p>【協議事項】 議案第 1 号 平成 2 1 年度準要保護児童・生徒の認定について 議案第 2 号 羅臼町就学援助規則の一部を改正する規則の制定について 議案第 3 号 羅臼町特別支援教育就学奨励補助規則を廃止する規則の制定について 議案第 4 号 羅臼町学校給食実施規則の制定について</p>
平成 2 2 年 2 月 2 2 日	<p>【報告事項】 第 2 号 諸会議・諸事業について</p> <p>【協議事項】 議案第 5 号 羅臼町立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について 議案第 6 号 羅臼町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について 議案第 7 号 羅臼町立小中学校通学区域規則の一部を改正する規則の制定について 議案第 8 号 羅臼町の設置する学校施設の利用に関する規則の一部を改正する規則の制定について 議案第 9 号 平成 2 1 年度 児童生徒表彰について 議案第 1 0 号 平成 2 1 年度 準要保護児童・生徒の認定について 議案第 1 1 号 平成 2 1 年度 教育費予算補正について 議案第 1 2 号 平成 2 2 年度 教育行政執行方針について 議案第 1 3 号 平成 2 2 年度 教育費予算の編成について</p>
平成 2 2 年 3 月 2 5 日	<p>【報告事項】 第 3 号 諸会議・諸事業について</p> <p>【協議事項】 議案第 1 4 号 平成 2 2 年度 準要保護児童・生徒の認定について</p>

5 条例・規則等の制定、計画等の策定状況

議案番号	条例・規則等の制定、計画等名	担当課
第16号	羅臼町就学指導委員会規則の一部改正について	学務課
第20号	平成21年度 羅臼町確かな学び推進プラン	学務課
第2号	羅臼町就学援助規則の一部を改正する規則の制定について	学務課
第3号	羅臼町特別支援教育就学奨励補助規則を廃止する規則の制定について	学務課
第4号	羅臼町学校給食実施規則の制定について	学務課
第5号	羅臼町立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について	学務課
第6号	羅臼町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について	学務課
第7号	羅臼町立小中学校通学区域規則の一部を改正する規則の制定について	学務課
第8号	羅臼町の設置する学校施設利用に関する規則の一部を改正する規則の制定について	学務課

6 学校への指導・助言・援助の状況等

(1) 主な指導・助言・援助の状況

開催月日	内 容	担当課
5月15日	羅臼中学校指導主事による授業指導	学務課
5月25日	植別小中学校公開授業研究会の助言	学務課
6月23日	植別小中学校指導主事による授業指導	学務課
6月25日	飛仁帯小学校指導主事による授業指導	学務課
7月1日	春松中学校公開授業研究会助言	学務課
7月9日	羅臼中学校指導主事による授業指導	学務課
9月15日	羅臼中学校指導主事による授業指導	学務課
9月16日	春松小学校指導主事による授業指導	学務課
9月17日	飛仁帯小学校指導主事による授業指導	学務課
9月18日	羅臼小学校指導主事による授業指導	学務課
11月2日	春松中学校指導主事による授業指導	学務課
11月13日	羅臼中学校自主公開研究会兼羅臼地区交流研究会	学務課

7 外部評価委員会の開催

開催月日	内 容
9月17日	教育行政点検・評価に係る内部打ち合わせ
10月5日	教育行政点検・評価に係る内部打ち合わせ
10月20日	北海道教育大学釧路校を訪問し、事務局及び二宮准教授・境 准教授へ外部評価委員への就任を依頼するとともに、評価調書について説明を行った。
11月15日	第1回教育行政外部評価委員会開催

第 章 教育行政の内部評価

1 重点施策の評価

(1) 学 校 教 育

評価A：達成（効果が現れている） B：ほぼ達成（一部効果が見られる） C：進行中（効果がみられない） D：未着手

区分	施 策 事 業 名	事 業 の 進 捗 状 況 と 成 果	問 題・課 題 等	評 価
幼稚園教育	（幼稚園教育の充実）			
	幼稚園教育要領に基づいた教育活動の充実を通して幼児一人ひとりの望ましい成長を促し、豊かな人間性やたくましさの育成など「生きる力」の基礎を培う。	幼児にふさわしい生活を実現するため、保護者との連携を図りながら園児が集団生活に必要な基本的な生活習慣やきまりに気付き身に付けていけるよう園児一人ひとりの育ちを日常的に記録し、育ちを明確にした。	一人ひとりの発達課題を探り、集団での確な援助に努めているが、保護者には十分に伝わっていない。クラス便りや連絡ノートの工夫改善が必要。	B
	預かり保育を教育活動の一環として位置づけを明確にする。	5歳児の午睡を改め、午後からのカリキュラムを推進している。	預かりの保育計画を進めているが、まだ適切な対応に改善を要する。	B
	遊びの中に「言語の概念」や「数の概念」を取込む。	親しみを持って日常挨拶をすることや体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。又子どもたちの自主的な遊びの中に、数に関する遊びを取入れ発達を促した。	幼稚園活動の中では十分に取組むことができた。	A
	「食育」・「自然環境教育」など小学校との連携を意識した教育課程を推進する。	身近な自然観察を行いながら、露やヨモギを摘んで、園児も一緒になって調理を行い食材として活用している。幼稚園の畑を利用し大根栽培を行い、園児も一緒になって調理を行い漬物として食べている。	保護者や保護者の祖父母から好評である。	A
	小学校との交流を推進するために、教員同士の交流を推進する。	小学校と具体的な活動内容について明確にし、実行した。	各学期ごと工夫をしながら効果的に実施している。	B
小学校と幼稚園の教員による相互乗入れ授業の可能性について検討する。	教員同士の親睦交流を行った。教務担当間で月行事の確認を行い、計画的に進めることができた。	教員の相互乗入れ授業は出来なかったが、初任の教員2名、校長、教頭が授業参観を行った。	B	
学校教育	（信頼に応え魅力ある学校づくり）			
	新しい学習指導要領に基づきながら羅臼町教育目標に沿って「生きる力」育む特色ある学校づくりを推進する。各校において、教育課程を計画的に実施し、基礎基本の確実な定着と自ら学び、自ら考える力等「確かな学力」を育成するとともに、道徳教育の推進や生徒指導の充実に努め、「豊かな心」の育成を図る。	各校とも新しい学習指導要領に基づきながら授業を確保している。教育課程には各校ごとに地域の人材を活用した授業に工夫されている。特に知床財団を活用した自然環境教育が効果的に展開されている。家庭学習をはじめ、家庭生活の習慣化に積極的に取組んでいる。学校内の服装や挨拶等を通じた生徒指導が継続的に行われている。	学習成果の定着が充分にはかられていない。家庭学習、家庭生活の習慣化に向けた保護者の取組みが充分でない。	B
	校長は、学校経営の重点目標を明確に示し、具現化に向け、教職員一人ひとりの持ち味を十分に発揮させ実現に努める。	学校経営計画を教職員とともに策定する等工夫している。指導を含めて、着実に成果が現れてきている。	若年層の教員が多いことから、徐々に成果は認められるが十分に具現化されていない面がある。	B
	自己評価や外部評価の評価項目の適宜な検討を行い、より深い地域住民の参画を推進する。	保護者や教職員へのアンケート調査を実施し、学校経営に反映している。	自己評価や外部評価の項目が検討が行われており、具体的な方針も示されている。	A
教職員一人ひとりの授業力の向上を目指し、校内研修や自己研修、更には経験年数に応じた各種研修を支援する等資質の向上を図る意欲的な取組みを支援する。	学力の向上に向けて、各種研修会を開催した。Q・Uテストを実施し各クラスの実態把握の資料を提供した。根室教育局より指導主事の派遣を依頼し、授業改善を促した。	若年層の教員が多いことから、実施回数を増やしながら継続的に実施する必要がある。	B	

特別支援教育の推進	特別支援教育プロジェクト会議の開催 3 回 特別支援教育コーディネーター研修会の開催 小学校に特別支援教育支援員配置 特別支援教育研修会の開催 2 回 特別支援教育の考え方を生かす学級経営の進め方」研修会の開催 特別支援教育先進地視察の実施、	各校の普通学級における特別支援教育の成果を生かす対応を工夫する必要がある。 羅臼小学校工藤校長により「羅臼町の特別支援教育の取組みと課題」について研究発表された。	A
教育研究会への支援、学習指導法研究会、自主公開研修など、実践的指導力向上の推進。	教育研究会への支援、学習指導法研究会への支援を行った。 指導力向上に向けて、校長とも協議をして指導主事の学校訪問を積極的に依頼した。	今後も引続き継続していく必要がある。	B
学校の安全管理、いじめ防止活動、発達段階に応じた薬物乱用防止教育の推進、職業教育の推進。	各校で不審者対策の研修を行った。 いじめ防止に向けて、各校に資料提供を行った他タバコや飲酒の害について青少年活動と合わせて啓発活動を行った。 商工会と連携して職業体験活動を支援した。	中学生のキャリア教育については、将来目標を持たせるような事前学習が必要である。	B
(確かな学力を育む学習指導)			
C R Tテストや全国学力学習状況調査の結果から、各校ごとの課題が整理されてきた。具体的な対応策の実践。	C R Tテストを全校で実施した。結果を分析し、各校の対策を求めた。	一部学校で充分学習効果が発揮されていない領域について、具体的な対応が不足している。	B
学習意欲の高揚、学習成果の定着化、家庭学習の習慣化。	「羅臼町確かな学び推進プラン」を策定し、家庭での学習や生活習慣の定着に向けて、各校 P T A の活動として取組むよう運動を展開した。 漢字・算数、数学の検定試験に補助制度を設け学習意欲の高揚を図った。	学校ごとの取組みにバラつきがあり、今後は統一感を持った活動が必要である。	B
よりわかる授業の展開と子どもたちの理解や習熟度を考慮した指導などに改善・工夫をする。	根室教育局指導主事による指導や校内研修、自主公開授業研修を奨励した。	若い教員が多いこともあり各校が積極的に指導主事を活用しているが、もう少し指導主事の積極的な活用や自主公開授業研修が行われるようにしたい。	B
地域の素材や環境、地域の人材を生かした総合学習の推進。	知床財団の専門員、漁協女性部、北方領土返還語り部などを活用した授業が積極的に行われた。	引続き外部講師の積極的な活用を期待したい。	B
小学校における外国語活動の推進	羅臼小学校が根室管内の基幹校として文部科学省の委託事業を受けて実践活動を行った。	管内の基幹校として成果が確認できる活動が展開された。	A

教師の指導力の向上	学級経営研修会を2回開催した。 Q-Uテストの研修会を開催した。 他校の公開授業への参加を奨励した。	Q-Uテストの研修会を引続き行い、学級経営や日常の授業で活用する方策を確立する必要がある。	B
(豊かな心や健やかな体を育む教育)			
コミュニケーション能力や規範意識が低下している。自然体験や社会体験など集団活動を通じて育成していく。	東京農業大学との連携でルサ川における自然体験学習を行った。 厚岸町のネイパル等で宿泊研修を行ないコミュニケーション能力や規範意識を高めた。	まだ十分な取組みにいたっていない。教職員に対する意識高揚を図る手立てが必要である。	C
ボランティア活動の推進	全校の中学生と全校の高校生が一体となって町内一斉清掃ボランティア活動を実施した。 各種大型イベントの終了時に各中学校・高校の生徒会によって会場及び会場周辺の清掃ボランティア活動を行った。	ボランティア活動の発展的拡大が期待できる。今後小学校にも好影響を及ぼすものと期待できる。	B
キャリア教育活動の推進	キャリア教育の事前研修を行った 商工会を始め関係団体等の協力を得て、職場体験活動を行った。	キャリア教育の意義を深め、効果的な展開が求められる。	C
食育の推進	羅臼漁業協同組合各部会より食材の無償提供を受け、地産地消の学校給食を実施した。 学校において「食べ物と体」についての授業を推進した。	地産地消の学校給食は水産加工振興協会の支援を受け、無償で食材加工として提供を受けている。食育の推進は各学校で工夫が必要である。	B
(中高一貫教育の推進)			
「知床学士」認定制度を創設し運用する。専門推進員を配置し、自然学習の体系化を推進する。	自然環境教育の専門推進員を配置した。 「知床学士」認定制度を創設し、第1回検定試験を実施した。	自然環境教育推進専門員と羅臼高校とのTTは効果的に推進されている。中学校との連携はまだ充分ではないが、着実に深化している。	B
幼稚園・小学校の発達段階に応じた自然教育のカリキュラムを整理し、将来の中高一貫教育の自然環境科目群との整合性を図る。	幼稚園から高校生までの体系化した自然学習プログラムを検討し平成23年度までに完成するよう策定作業を行っている。	羅臼町確かな学び推進プランの一貫として、発達段階別の自然環境学習の目安が確立されている。	B
自然環境教育推進専門員を配置し、中高一貫教育の自然教育の質的向上を促進する。	高校における理科の時間をはじめ自然教育に係る授業に専門員を派遣した。	高校では質的向上は図られたが、中学校は不十分である。	B
自然環境教育推進専門員と高校・中学校とTTを検討し、可能なところから実施する。	自然環境教育推進専門員によるTT活動を積極的に推進した。	高校でのTTは充分実績を上げているが中学校ではもっと工夫した活用を検討する必要がある。	B
幼稚園・小学校・中学校と交流授業を推進する。	自然環境教育推進専門員による交流授業は行わなかった。	幼稚園から高校生までの体系化した自然学習プログラムが出来てから具体的な活動を行う。	D

(2) 社会教育

評価A：達成している（効果が現れている） B：ほぼ達成している（一部効果が見られる）

C：進行中（着手はしているが、効果がみられない） D：未着手

	(社会教育計画・条件整備)	中期計画達成度の理由	問題・課題等	評価
社会教育	諸会議 目標：生涯学習の観点から、当町の社会教育の振興策を探り、地域に根ざした推進方策を考える。	道レベルの研修会では、社会教育委員の自主的活動が取上げられており、毎回数名の委員が参加し研修を深めている。適切な時期に自主的な情報交換会の開催が望まれる。	・社会教育委員活動の主体的取り組みの啓発 ・第6次社会教育中期計画の策定に向けた取り組み	C
	社会教育計画及び各種調査研究 目標：地域の実情に即した社会教育計画の策定を行う。そのために各種調査及び資料収集活動を行い、計画の遂行及び事業展開のための基礎資料とする。	事業アンケートにより、参加者がどのような内容の学習を望んでいるかのデータが集まっている。	データ収集は家庭教育学級でのみ実施。中期計画の策定のための調査をどのように情報収集するか。	B
	学校開放事業 目標：住民の生涯学習活動を推進するため、学校施設を開放し、学習の場として提供するための条件整備を図る。	羅小では、陶芸サークルが学習発表会にあわせて展示を行っている。	文字通りのコミニティー・スクールに近づけるための方策を模索。	B
(指導者養成・研修)				
	野外体験指導者養成事業 目標：自然の持つ教育作用を認識し、豊かな自然環境を使った野外体験プログラムを指導・提供できる指導者を広く養成する。	予算減により、方向転換した事業である。実質的な指導者養成事業ではない。	実質的な指導者養成事業ではない。 有志の高校生によるサプリーダー養成のしかけをどのようにするか。	C
	各種リーダー研修派遣事業 目標：管内・全道・全国的な各種リーダー研修事業に派遣し、資質の向上を図るとともに、団体活動の活性化に資する。		希望者が多数の場合に何らかの方法で選出しなければならなかった。希望者がいない場合は、それでも良いとの確認をしている。教育局の開催案が展示される。釧根地区で開催するような案が出されている。	B
(青少年教育)				
	第27回ふるさと少年探検隊 目標：ふるさとの自然に親しみ、豊かな心を養い、子どもたちの郷土愛、忍耐力、協調心を育てる。	グループ毎の5日間の宿泊により仲間意識が芽生え、協力し合う姿勢が見られる。また、自然の中で日常的な生活を送ることで忍耐強くなっているところがみられる。	世界自然遺産の目的と環境問題をどのようにプログラムに取組むかが課題。	B
	高校生の水産教育 目標：漁業後継者を目指す高校3年生を対象に、漁業に関する基礎的、基本的な考え方や、知識・技術を学ぶ機会を提供する。	羅臼漁協・羅臼高校・教育委員会三者の共催事業として定着しており、世界自然遺産の環境保全と関連させることができ、次代を担う漁業後継者の育成が図られている。	期間を延長し、計20回を目標にしたが、対象学年が3年生で12月までに終了させることがベストだとわかった。 知床学士との関連性を検討する必要がある。 三者の担当者の引継ぎをしっかりとしていかなければならない。	A
	成人式 目標：成人となったことを祝い、社会人としての有意義な人生を歩むよう誓い、励ます機会とする。		従来どおり、行政主導が良いのか、実行委員会方式で形づくらせるのが良いのか。 新成人に対し、行政がとる姿勢を大切にす。	C

家庭教育学級 目標：家庭教育どうあればよいのか、親のあり方、発達課題、子育ての悩み等、気軽に考えあえる場をつくり、よりよい家庭づくりを目指す。	当町では、家庭教育について学ぶ数少ない機会ではあるが、講演会等の集合学習は参加者が少なく開催が難しい一面がある。又、特に参加して欲しい(学習必要のある)者の参加が見込めず効果が上がらない悩みがある。	平成16年度から各小中学校ごとの課題を取上げ、PTA・学校と共催して、参観日等を機会として実施してきたが、いずれも参加状況が悪い。 PTA連合会との共催で実施できないか打診中。	C
(芸術文化)			
芸術文化活動振興奨励事業 目標：町民の自発的、創造的な芸術・文化活動の促進を図るため、町民を対象とした芸術・文化的な事業を行う団体に対して助成を行う。	意欲ある人材が固定化しており、広がり限界がある。	意欲的なサークルの早めの情報収集。 課題は、そのサークル・団体への支援、新たな人材の発掘育成。	C
少年芸術劇場 目標：町内の児童・生徒に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供し、豊かな情操の涵養に資する。	今年度の音楽の演奏中、小学、中高の部共に一体となって鑑賞していた。	予算的に公演依頼先に限りがあがる。 平成22年度の演劇を選定するにあたり、小学生の部及び中高生に適した依頼先をさがす。	B
(団体・サークルの育成・支援)			
子育て支援関連事業 目標：子育てに関する事業を展開する関係機関と連携をとりながら、子育て情報の提供を行い、サークル活動を支援していく。		子育て支援サークル「すまいる」との連携が問題点であるが、サークルの一時活動休止と合わせて担当者の力不足。	D
社会教育関係団体等の育成・支援 目標：社会教育関係団体やサークル等の育成を図り、団体・サークルの自主的運営を促し、活動の助長を図る。	ほぼ自主的に活動がなされている。役員改選時にはしっかりと引継ぎがなされるよう気をつける。	かなり自主的に活動されている。 どんな時に、どんな支援どんな協力。 担当者次第で変る接し方では問題あり。課内での打合せは不可欠。望まれる社会教育関係団体とは、そこが最終目標。	B
郷土芸能振興事業 目標：郷土芸能「知床いぶき樽」を学習素材として後世に伝える。	組織がしっかりとおり、自主的な活動がなされている。	活動、取組み状況の把握が必要。 指導者の育成に支援・協力が必要。	B
各種教育団体派遣費助成事業 目標：町内の社会教育団体、その他これに類する団体及び団体に所属する個人が、スポーツ・文化活動において、全国・全道大会、事業等に出場する場合、助成を行い町民の心身の健全な育成と技術及び文化の振興を図る。		ただ派遣することにとどまっている。 派遣する団体の取組み紹介、結果紹介が課題。	A
(文化財保護事業)			
埋蔵文化財保護事業 目標：古代の歴史を今に伝える遺跡を保存し、事前協議の必要なものに関しては調査を実施する。発掘調査が必要なものは発掘を実施し、記録として保存する。	6件の事前協議があり、1件については試掘調査を実施し、包蔵地の存否を確認。これにより、町内の遺跡破壊が防止されている。	特に問題、課題はない。	A
国指定文化財保護事業 目標：国指定天然記念物の保護と生態、生育環境の調査、一斉調査を行う。	環境省・知床財団に協力し、新たにオジロワシ営巣木3、シマフクロウ雛4羽の巣立ちを確認した。これにより、営巣地周辺の破壊が食い止められている。	特に問題、課題はない。	A

	北海道指定天然記念物保護事業 目標：道指定天然記念物の保護・管理に努める。	間欠泉の噴湯調査、環境調査を実施したが、依然として噴湯停止、立入り規制は続いている。	間欠泉の噴湯停止、岩盤剥離のため光ごけの立入り規制。 間欠泉は今しばらく様子を見たい。光ごけは前庭部の落石なので、町の対応待ちとなっている。	B
	郷土資料室整備事業・管理事業 目標：自然や歴史的な文化財を多く残す当町において、その一部に間近に接し、郷土への認識を深める。	収蔵資料については「明治40年以降村勢状況調査」(343ページ)の書下ろしが終了。又、古写真のデジタル化(現在100枚程度)を進めている。「続・羅臼町の地名について」発刊600部	小・中学校が4校になった際の移動展のあり方を検討中。	A
公 民 館	(地域に根ざす事業)			
	調査・評価 目標：公民館活動充実のため、各種調査・評価を行い、事業展開の基礎資料とする。	趣味の講座への参加者が少数のためアンケート調査は実施していない。	参加者との話し合いでは、これと言った意見が出てこない。講座の指導者となるべく人材が少ないため、発掘等が必要と思われる。	D
	(生活文化を高める事業)			
	ふるさと体験教室「知床kids」 目標：羅臼の自然に親しみながら学習し、郷土の文化を愛する心を育てる。	参加しているkidsが楽しみながら自然と郷土文化を学習している。	参加しているキッズがスポーツ少年団等の活動を優先するため欠席が多い。毎年同じキッズが参加する傾向があり、新規プログラムの開発が必要。	B
	各種趣味講座 目標：趣味的活動を通して、一人でも多くの方が生きがい感と創作の喜びを持てる機会を提供する。	講師及び参加者の確保が不十分となっている。	講座の指導者となるべく人材が少ない。講師の確保及び参加者の確保が課題。	C
	郷土料理教室 目標：郷土の素材を使った料理を通じて、郷土を理解する。		講座の指導者となるべく人材が分からない。講師の確保及び参加者の確保が課題。	C
	こまぐさ学級 目標：趣味活動、教養講座を通じて高齢者が生きがい感をもてる機会を提供する。	参加している生徒からは「声を出す」「体を動かす」「他の生徒と会ってお話ができる」等の声が聞けた。	男性及び新規生徒の発掘。高齢者に即したメニューの発掘。	B
	公民館相談事業 目標：各種グループ・サークルの自主的な活動を助長し、住民のふれあい活動を促進する。	利用団体がいない。	予算が限られているため周知ににくい。職員でやれることを積極的にやりながら、講師バンクを積極的に活用。	C
	第39回羅臼町総合文化祭 目標：町内の文化活動をしている個人・団体・グループが一堂に会し、日頃の活動成果を発表する機会を提供し、活動の助長を図る。	一般作品展への出品者数も増加している。	文化祭に関わりを持つ参加者が少なくなっている。自己中心の参加者が多くなり、自分の用件のみの関わりとなっている。実行委員会としての意識をどれだけ持ってもらえるか、組織として動けるようなしかけが必要。	B
	児童・生徒美術書道展 目標：町内の児童生徒の美術及び書写活動による作品を一堂に会することにより、一層の情操と創造の心を育てる。	作品数が減少傾向だが、作品を一堂に会している。	美術の部で作品にバラつきが見られる。教員の意識、取り組み方で意義・効果が生まれるので、事業趣旨を正しく理解してもらうことが必要。	B
芸術文化鑑賞事業 目標：多くの人に知られている著名人を講師として招き、現代社会に即応できるような知識・見聞を深める。または、生の優れた音楽を鑑賞させる機会を提供する。	限られた予算の範囲で、著名人を講師として開催できた。	予算内で選定できる著名人がいない。文化講演会では黒字にならない。入場者が見込めない。	B	

ロビー・ホール展示事業 目標：気軽に芸術文化に触れる場とするほか、学習活動の発表の場としても活用する。	展示内容を毎月変えながら展示するサークルが出現した。	展示事業が増加しているがまだ空白の期間がある。	B
ふれあいコンサート 目標：町内の園児・児童・生徒等に音楽の発表の機会を提供する。活動の助長を図りあわせて異世代の交流を通じたふれあいの場とする。	新規出演団体が見られないものの、異世代の交流を通じたふれあいができている。	出演者の固定化。	B
(図書室振興・基盤整備)			
資料整備事業 目標：町民一人ひとりの資料要求にきめ細かく対応し、個人学習を支援する。	「情報発信の場」を目指して活動しているが、最新の資料を十分に購入できない状況が続いている。	新刊購入費が不足し、目標とする学習支援が充分できない。緊縮予算が続く状況にあり、予算回復が課題だが、苦慮している。	C
本との出会い講座・講演会 目標：親子の絆を深める家庭での読み聞かせを普及するため、絵本について学ぶ機会を提供する。	家庭での読み聞かせは普及されてきた。	予算が少ないため、著名な講師を招くことが困難。幼稚園との連携はうまくいっているが、親の意識付けを強化したい。	B
第8回らうす古本市 目標：限られた資源を有効利用しようとするリサイクル時代に、不要になった本や雑誌を町民に還元することにより再活用してもらい、地域の環境に気付き、この活動を通して図書活動への関心をもってもらおう。	古本市は浸透してきたが、協力体制が広がっていないため、図書館活動の推進についても広がりがあまり見られない。	協力員の都合により参加出来なかった。協力体制や開催の内容見直し。	B
図書室出前事業 目標：町民の要望や、学校での読書案内の要望にきめ細かく対応し、図書活動の推進を図る。	積極的に働きかけが出来ない状況。	事業は利用してもらいたいが増えるほど職員の負担が大きくなり、司書一人ではつらい。内容について特に問題はないし、もっと出前事業を増やしていきたいが、現在の職員体制を変える必要がある。	C
1日子ども司書 目標：図書館の仕事について知ってもらい、適切に利用できるよう援助する。また、本を介し読書の動機付けを図る。	定着している。	特に問題はないが、司書1名ではつらい。	A
図書館バス利用ガイダンス 目標：町内の子どもたちに公共施設を適切に利用する習慣や、社会性を身に付けてもらうため利用指導を行う。	定着している。	特に問題はないが、司書1名ではつらい。	A
読み聞かせ事業 目標：本の紹介や読み聞かせを行い、読書の動機付けを図る。また、司書との交流を図り図書室に親しみをもってもらおう。	子育て支援としての読み聞かせに取組み、親子のふれあいができる事業を展開している。	春のお話会は行えなかった。秋も子ども祭が中止となり行ってない。クリスマスはインフルエンザの流行があり中止。0歳から2歳までの赤ちゃんへ読み聞かせを定着させる。季節のお話会はサークルとの調整をはかりながら実施していく。	B

社会 体 育	(諸会議・調査)			
	諸会議 目標：社会体育振興の視点から当町の体育・スポーツ並びに健康・体力づくりの振興方策を探り、地域に根ざした社会体育の推進に努める。	町民のニーズを把握し、計画的な生涯スポーツ活動を具現化した総合型スポーツクラブ設立に関わり、体育指導委員会が果たした役割は大きい。	総合型スポーツクラブ設立後、体育指導員の活用が図られていない。 行政が期待する体育指導委員の役割と活用について検討が必要。	A
	調査 目標：各種調査により社会体育事業を効果的に実施する方策を探る。	現実的に、用紙を使用した調査は難しい。又社会体育事業の削減により、事業アンケートの機会はほとんどない。但し、クラブ協働事業における「らいず」の動きとして20年度に年間事業アンケートを実施した。	社会体育事業は皆無で事業満足度アンケートは未実施。 調査方法の検討。	B
	(機会提供事業)			
	小学校陸上運動大会 目標：各種の陸上競技を適切に行わせることにより、心身の健全な発達を促し、相互の友愛を深め、公平な態度を育てる。	“走る・跳ぶ・投げる”等、体を動かす基本動作を、陸上競技ルールに基づいた実施から機会提供が図られている。	陸上競技について、適切な指導が受けられるような場が必要ではないか。 陸上競技講習会の検討。2校になることで集中した講習会が可能か。運営委員会の体制、競技役員不足の補い方について検討。	A
	各種関連事業 目標：練習成果発表の場及び町民相互の交流機会の提供を図る。	各種大会運営は順調であり、町民の貴重な練習成果発表の場となっている。	スポーツ交換大会への参加が少ない。 国後眺望駅伝の補助金は22年度より打ち切り予定。 体育協会の組織強化。国後眺望駅伝は22年度第20回大会であり、記念事業と位置づける。	A
	スポーツ相談事業 目標：各地域におけるスポーツ・レクリエーション、健康づくり活動を活発化させるとともに、自主活動の促進及び指導者養成を図る。	予算的に積極的なPRはしていないが、相談に応じる用意はある。又、スポーツクラブによる健康事業の充実により、以前ほど相談件数はない。団体のレクリエーション指導の要望が多い。	ニーズに応えるためのスキル獲得など、研修事業の充実が必要。	B
	学校体育施設開放事業 目標：地域住民の居住地域である学校体育施設を開放することにより、スポーツ・レクリエーション活動の促進を図り、健康・体力づくりの意識づけを図る。	羅小と春松小の定期利用で、サークル活動は足りている。年間何回かの申請があるが、定期的に活動が継続していないのは、施設の老朽化などによる不便さが原因と思われる。	羅小・春小の利用でほぼ充足している。	B
	(施設整備事業)			
	体育施設の整備・充実 目標：各スポーツ施設の整備及び効果的な開放の促進を図る。	施設の維持管理と有効利用に関しては十分に達成しているが、継続的な修繕と更なる有効利用が必要。	老朽化が著しいが、予算確保が困難。 21年度、アリーナ床ワックス、トイレ一部改修、1階会議室部分改修実施。 単年度、計画的に修繕・補修を実施する必要がある。	B
(その他)				
各種補助事業 目標：各種スポーツ団体が、より活発な自主活動を展開するための経費を補助する。	補助金を有効に活用し、高い効果が見られる一方、減額・廃止による今後の団体活動や大会運営の停滞が危惧される。継続的な補助が必要。	国後眺望駅伝補助金は平成22年度より打ち切り。	A	
(団体育成・指導者育成)				
社会教育団体等の支援 目標：団体をリードする指導者の発掘、養成を推進し、自主自立を目指した継続的な支援、育成を目指す。	指導者・リーダーの育成が徐々に行われ、活躍する場の増えてきているが、充分ではない。	体育協会は組織強化を図るため22年度重点を置くことが必要。 総合型スポーツクラブはクラブマネージャー配置予定。自主自立を目指す。	A	

第 章 外部評価委員会の意見要約

1 教育委員会全体について

教育委員自らが研修機会を設け、研鑽を積んでいることは大変重要な事であり、組織が変容するための重要な手段である。

羅臼町の特性を踏まえた教育の状況の分析、そこから抽出された教育課題を解決するための議論・検討と手立ての立案が施策となって反映されることが望ましい。

2 幼稚園教育

「言語の概念」「数の概念」などを遊びの中に取り入れた教育の取り組み、小学校との交流・連携など積極的な取り組みは評価される。特に、羅臼町は羅臼幼稚園から羅臼小学校、春松幼稚園から春松小学校という整理された形での運営になったメリットを活かし、より一層の連携強化が図れる事が期待される。

幼・小の連携は、「一人ひとりの学びの成長を見取る」という視点で、今後も、幼稚園の先生と小学校低学年の先生の交流促進を積極的に行って欲しい。

幼児期に育てたい項目の中に身体作りがある。「座る」「聞く」など、(落ち着いて授業を受ける)小学校の授業のスタイルに耐えられる身体作りを意識して、生活や遊びの中に積極的に取り入れていくことを期待する。

「早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き、そして外遊び」などの生活習慣は幼児期からの取り組みが必要である。子育て支援センター(発達支援センター)との積極的な連携を図りながら、子育て支援センターの機能が持てる幼稚園に発展していくことが期待される。一人ひとりの子どもの育ちに関する意見交換の機会を設けること、羅臼町の幼児の実態に合わせた園内研修の充実、研究会・研修会への参加など、幼稚園の教員集団自身による計画的な研修計画が立案され、実施されていくことが必要である。

3 学校教育

(1) 信頼に応え魅力ある学校づくり

羅臼町の取り組み、特別支援教育やいじめ不登校等の対策などは評価する。今後一層の推進を望む。

「幼稚園から高校まで一貫して力をつける羅臼町」として、学校・地域が一体となって取り組む施策が期待される。

幼稚園教育・学校教育でも、羅臼の子ども達のかかえる課題を抽出し、解決のための議論・検討と手立ての立案が施策となって反映されることが望ましい。

キーワード：食育(肥満・虫歯)、幼児教育、一貫教育、教員研修

(2) 確かな学力を育む学習指導について

若年教員支援として「授業力」の向上は必須の条件で、「子ども理解に基づく授業作り」を引き続き充実させていくことを期待する。子どもたちの理解や習熟度を考慮した指導などに改善・工夫をすることについて、積極的に北海道立教育研究所、同附属理科教育センター・同附属情報教育センター、特別支援教育センターなどへの定期的受講をさせてはどうか。

「授業力の向上」と「子ども理解にもとづく授業づくり」を、教師支援の重点として取り組み、羅臼町が抱える課題を危機感と捉え、地域・家庭との十分な連携体制で推進することに期待する。

(3) 豊かな心や健やかな体を育む教育

幼小中高等学校一体となって豊かな心、健やかな体を育むプログラムを作成してはどうか。

食育に関する羅臼町の総合プログラムがあってもよい。

羅臼の子ども達に、キャリア教育を意識した「食育・コミュニケーション能力育成・ボランティア活動・性教育など」を通して「自分達も羅臼町の町民で町作りの一員である」という自覚を育てる教育の推進を期待する。

コミュニケーション能力の向上にむけて日常的な取り組みが必要である。また、ボランティア活動は、中高生のみならず小学生からの取り組みも可能であり、そのような機会を活かして、子ども達が「必要とされている」「役に立っている」「ほめてもらえた」という経験を十分に積むことが出来る場にしていくことが必要であり、「自分達にも羅臼町の町民としての役割がある」との自覚を促し、町づくりの一員として責任を担っていく活動に発展させていくことも可能である。

危機管理体制の強化は、学校内外での事故防止のためにも、教職員のみならず、子ども達への安全教育や、防災教育の充実が必要な時代となっている。また、性教育の取り組みや「親になるプロセス」作りの教育も強化される必要がある。

(4) 連携型羅臼町中高一貫教育の推進について

「自然環境学習」をキーとした中高一貫教育が評価できる。羅臼町ならではの取り組みであり、今後「自然環境学習」をキーとした中高一貫教育の一層の推進と、幼稚園・小学校・中学校を連携強化した取り組みの充実を望む。

高校と中学校の連携を強化し、特別支援教育の観点を取り入れたりすることによって、高校側が中学生段階での「子どもの学びと育ち」の情報を入手することは可能であり、それによって高校の授業作りや生徒指導に反映させていくことができる。また、子どもの学びの状況を高校から中学校に返すことによって、中学校の授業改善に反映させたりすることも可能である。このことは、小学校と中学校の関係でも同じことが言える。

幼稚園・小学校・中学校と交流授業を推進することは重要な事である。また、羅臼町の理科教育振興のために、理科支援員の配置は小学校だけではなく、中学校への配置も考えるとともに、小・中・高等学校の理科教諭が一体となった、多くの方々への理科振興を図る「科学を学ぶための行事」を開催してはどうか。

水産資源とアカデミックな水産関係に関して非常に素晴らしい場所であるが、地元から次につながる人たちが出てこないことに危惧している。

知床羅臼という非常にいい場所を活かし、子どもたちが卒業しても観光や他の産業に活かせるところまで進める必要がある。自然教育という部分から自然を理解してくれる子どもたちも増え、それが底上げされて、この5年間くらいで自然に対する考え方も変わっている。

4 社会教育

(1) 社会教育計画・条件整備

住民の町づくりへの主体形成、住民自治の醸成のためにも一層の充実が期待される。新しい公共の概念を議論し、住民参加による社会教育計画の立案と社会的協働が営まれる地域づくりが成される事を期待する。

第6次の計画立案にあたって、学校の教育体制の課題等が出てくると思うが、担当が替われば一からやり直しということが多々ある。行政は特にそういう部分があるが、組織の活性化は計画的にやらなければいけない。人が替わっても安定的にシステムが定着するまでは人事の異動は控えるくらいの対応が必要である。

(2) 指導者養成・研修

野外体験指導者養成は、羅臼町のこれからの発展のためにも充実していく事を期待する。特に安全の確保と事故への対応を強化することと、高校生のサブリーダーが積極的に参加できる機会を作っていく事に期待する。

(3) 青少年教育

子ども達へのプログラム、後継者養成プログラムなどの一層の充実を期待する。家庭教育学級が苦戦されているが、家庭の教育力の向上は、子ども達の学びの環境整備のためにも必須の条件となる。関係者が知恵を出し合い充実させていくことを期待する。

小・中を視野に入れ、一貫した水産教育の展開も考えられるのではないかな。

青年の人材育成に係わる事業が無いのではないかな。今の羅臼町をみると、人材が育っていない。町・商工会・漁協が一体となって、どのような取り組みが必要か話し合う場を持ち、計画を立てて実行してほしい。

(4) 芸術文化

芸術文化の分野は、自ずと「生活文化」に影響を与えている。また逆に、日常の生活改善などが芸術文化への関心につながっている。大人の文化度が、生活環境の文化度となり、子ども達の生活や学力にも影響を与えているから、積極的な取り組みを期待する。文化財保護事業は、次世代につなぐ事業として、充実していくことを期待する。

(5) 団体・サークルの育成・支援

子育て支援関連事業の充実は、家庭教育学級の充実へとつながっていくことから、人材の発掘と育成は急務である。また、地域住民の自発的な団体活動を支援する事業は引き続き充実させていくことを期待する。

部活動・少年団活動を通して児童生徒が学ぶ事が多くあることは否定できない。また、それに力を発揮する教員もいることも確かであるが、羅臼町の学力向上の為の時間を確保し、学級経営、教科経営に力を注ぐ時間を確保する為に、教員の部活動、少年団活動への取り組みの軽減を図るべきである。

(6) 公民館

全般的に課題が多々あり、努力はしているのだがなかなか成果が出ない状況であると推測され担当者の苦悩が感じられる。さまざまな事業を運営するのだが、人材の不足、講師の確保の困難さ、参加者の確保の困難さがあり、また担当者の業務への負担感が感じられる。

まず、担当職員への労いが必要で、その上で、対応策検討のプロジェクトチームを結成し、担当者を支援する体制が必要と思われる。また、行事当日の応援体制の充実、ボランティアの確保など業務が過重になるときに担当者任せにせず、職員がチームとなって取り組む必要性がある。

(7) 社会体育

健康づくり推進事業は、高齢化が進む中で福祉・医療との関係も深く、社会的にも重要な分野となっている。施設の老朽化などの問題もあるが、安全面に留意し、より一層の充実を期待する。

第 章 まとめ

平成21年度羅臼町教育委員会が行った主要施策の内部評価をもとに、達成状況や取り組み状況について、分野ごとに点検・評価をしていただきました。

変化する社会情勢の中で、子どもたちに自己実現できる力を身につけることが強く求められています。知床の豊かな自然を十分に活用しながら、地域の教育力の向上を図っていききたいと考えています。

このたびの点検・評価では多くの貴重なご提言をいただきました。教育は、羅臼町の将来を担う人材の育成であり、生涯学習の視点を基底にして、教育委員会や学校だけではなく、町長部局との連携をより一層深めながら、総合的に取組んでいかなければなりません。

多くの委員から春松地区と羅臼地区に幼稚園・小学校・中学校が配置されている教育環境を十分に活かすことが、羅臼町の特色ある教育の展開に大きな力を発揮するとのことご指摘をいただきましたので、具体的な方策について検討してまいりたいと考えています。

特に、幼稚園・小学校・中学校の連携による学びの継続と成長の連続性を大切にした活動を実践するとともに、PTA連合会が推進している生活習慣の定着に向けた活動を積極的に支援し、学習意欲を喚起し確かな学びの定着を通じて子どもたち一人ひとりの豊かな育ちを支えてまいります。

社会教育につきましては、今後もさまざまな学習機会を提供するとともに、第6次社会教育中期計画の策定にあたりましては、青少年教育の充実した取組みに意を用いながら町民の多様化する学びの意欲を支援してまいります。

特に、スポーツ活動は高齢社会における健康保持に有効な方策でもあることを意識し、総合型スポーツクラブらいつの活動を積極的に支援してまいります。

平成21年度は、事務事業をはじめ各事業とも概ね計画通りに推進することができましたが、今後、大学が持つ高い専門性を実践する場として、互惠性のある連携を深めながら、羅臼町の特色ある教育を積極的に推進し、町民の信頼に応える教育行政を進めてまいります。